

札幌、大阪)、預金の増加が順調であつたため、購辦資金等貸出の激増を見た一部銀行を除き地方銀行の金繰は大に寛ぎ、余裕資金を以て本行よりの借入金返済する外、第一回復興四分利公債、復興金融債券の応募、コールの放出等に之を使用した(福島、松江)。

五、通 貨

本行各支店に於ける銀行券の増勢は一般に鈍化傾向を示し、熊本、高松等諸支店に於ては従来にない還収超過額を来した。然し札幌、函館、青森等では水産物、馬鈴薯、林檎等の出廻期に際会したのと炭礦の現金需要に前月を上廻る発行超過となつた。

六、物 価

主食の完配と豊作見越しによつて米の闇値は前月に引続き二、三割方の低落を示し米作地たる新潟に於ては月末一升七十五円に迄下落した(新潟)。更に新公定価格の大幅引上にも拘らず一般購買力の減退は著しいため、ラジオ、万年筆、陶器等一部商品には公定価格を割るものも尠くなく、一般雜貨類は保合状態にある(門司、熊本、高松、京都、福岡、神戸)。然しながら配給確保の困難な魚類、野菜類は漸騰して居り(仙台、新潟)特に冬季を控え薪炭類は二、三割方の暴騰を示している(大阪、函館、高知、甲府)。かくて一般勤労者の生活難増大に伴い賃銀引上要求は再び活潑化の気配を見せている(札幌、岡山)。(黒崎)

(本稿作成迄に松山支店の報告未着に付き参照を省略した。)

昭和二十二年十月——十二月

十 月 中

一、概 況

月末内定した追加予算は一応収支バランスしているものの、實質上は相当の赤字を出すものと観る向多く(岡山、松本)、年末インフレ昂進の予測が支配的である(前橋、金沢、神戸、松山、熊本)。従つて一時小康を呈した換物運動も再び活潑化した(前橋、高知)。

各支店金融報告抜萃 昭和二十二年十月——十二月

電力事情の悪化により生産は減退し、特に化学工業部門が甚しく(新潟)、事業会社の資金難は更に激化しつつある(秋田、静岡、高知)。企業合理化の必要も一般に認識せられ始めた為労働不安社会不安は漸次深刻化するに至つた(新潟、静岡、熊本)。

新米供出は新米価の決定と供米条件の改善等に依り早場米地帯の供出も順調で(青森、秋田、仙台、新潟、金沢)石川県の如きは月末累計供出高は割当高に対し七〇%と昨年に比し五割以上の好成绩を示しているが(金沢)、一方県外搬出は輸送の不円滑と労務者不足から頗る不振で一抔の危惧を生じている(新潟)。

公定価格の引上げも漸く一巡したが、流通秩序確立に依る實質賃銀の充実が行われていない為新物価体系の崩壊を予想する向が尠くない(岡山、熊本)。

二、預 金

先月稀有の増加振を示した預金は今月に入り全般的に増勢の鈍化傾向が見受けられ、前月末に比し却つて減少した地方もあつた(小樽、金沢、松山、高松)。その原因は前月決算期の関係で相当大規模に行われた粉飾の反動が現われたこと、年末を控えての仕入資金の引出が多額に上つたことに求められる(各店)。一方農業会に振込まれた供米代金も祭日消費資金(高松)、麦肥料購入、農器具補修等の農耕資金需要増大からその歩留は極めて低く(富山、高知)殆んど全額が引出された地方もある(福島)。又福徳定期預金は担保差入制限が影響して消化困難の模様であるが(各店)、此の種物奨付預金の魅力は未だ衰えず(小樽)各地に於て地元復興資金調達を目的として計画された報奨物資付預金は相当の成績を挙げている(秋田、新潟、松本、岡山、熊本)。

三、貸 出

公定価格改訂に伴う運転資金の増高、購買力低下に依る売掛金の回収遅延、地方公共団体の赤字累増等に加え、更に正月商品仕入期接近により一般に資金需要増大し、貸出は可成の増加を来した処もあるが(神戸、岡山、高松、福岡)、金融機関は自由預金増勢鈍化の傾向に貸出手控の態度に出ている。特に支店銀行の貸出は消極的で余力はすべて本店へ送金する傾向が強く(福島、岡山、甲府、高松、熊本)地元銀行の融資も配給機関、繊維工業に対する融資に集中している(大

阪)。従つて他種産業の資金逼迫は一層深刻化し、殊に中小商工業に於て此の傾向は最も顕著である(仙台、名古屋、大阪)。此等中小商工業者は融資を受け得る企業を通じて間接に金融機関より借入を行うか(京都若くは關金融市場に資金を求めている為關金融の需要は旺盛化している。一方商況不振の為商社会社から關金融業者に転じた者も尠くなく(京都)、關融資を通じて事業を乗取ると云う傾向も見られる(神戸)。

尚融資規整の取扱上比較的恵まれた企業に於ても金融逼迫は蔽うべくもなく(各店)、年末から来春にかけて極度の資金梗塞を来し一種の金融恐慌が来るのではないかと観る向が強い(名古屋、京都)。

四、金利協定の廃止

金利協定廃止後の推移は注目せられていたが、各地共一応自主的申合に依り現状維持の状態にある(各店)。然し金融機関の経費増嵩から漸次日歩二銭三厘中心に上昇の気配にあり(福島、前橋、甲府、岡山、広島)、丙種事業に対しては日歩二銭五厘適用の事例が相当見受けられ(福島、広島)日歩二銭七厘を適用している処もある(小樽、熊本)。かくて早急なる金利調整の制定が希望されるが、現在の経済状況下日歩二銭三厘ベースは維持困難で(各店)改訂ベースとしては日歩二銭四厘乃至二銭五厘(小樽、熊本)の声が高い。

五、通 貨

先月増勢稍々鈍化した日本銀行券も名古屋、京都を除き各店共異例の膨脹を示し、月中発行高が年初来の最高記録を示した店もある(札幌、函館、青森、秋田、仙台、金沢、松山、高知、福岡)。此の原因としては官庁間給与調整金、早場米供出代金等の政府支払、水産物買付資金(岡山、函館)、公債改訂による運転資金の増嵩等を挙げ得るが、更に復興金融金庫よりの炭鉱に対する新円融資の多額に上つたこと(福岡)等も考慮さるべきである。

六、物 価

甘藷、蔬菜類の實際価格は若干低落了たが(大阪、岡山、高松)酒、煙草等の相違く公値引上は一般に物価先高感を与え(仙台、福島、松本)、殊に向寒期の為薪

炭、纖維類は著しく騰貴した(小樽、甲府、大阪、福岡)。又出来秋にも拘らず米価も依然強調で(各店)一般消費者の生活苦は加重せられている。

一方公債の廃止をみた一部果物類等を見るに撤廃に依る直接の影響は余り見られないが(青森、新潟、松山、熊本)小切手決済が行われる素地が出来たという意味に於て各方面より歓迎されている(神戸)。

石当り一、七〇〇円に決定を見た新米価は他物価に比して割安であるとし不満の向もあるが(各店)、三・一倍の引上は他との振合上已むを得ないとする見方が強い(仙台、新潟、金沢、松本、高松)。寧ろ農村の関心は米価よりも供米割当の過重ならざること(仙台)、更に必需物資の配給確約に向けられているが(各店)、一般の農器具其の他生産資材や生活必需物資は依然昂騰を示している現状よりして、将来物価体系を変更する場合に於ては米価スライド制(仙台)等何等かの措置を講ずるよう要望している(岡山)。

七、地方財政

人件費、物件費の増嵩に加え、公共土木事業、学校新設費等新規事業費並に一般の水害に対する復旧資金も加わり、地方公共団体の支出増加は著しいが、一方徴税は遅延し勝ちで、此の為地方財政の窮乏化は著るしいものがある(各店)。然も赤字地方債の起債は困難なる上、銀行、大蔵省預金部等よりの借入も殆んど期待出来ず(熊本)資金調達には全く四苦八苦の態であり(各店)、発行条件を或る程度迄度外視しても消化を図ろうとする焦慮の色が見受けられる県もある(松山)。斯かる地方債消化難の原因は県財政に対する不安(福島、静岡)、低利廻もさること乍ら、根本的には起債予定額が金融機関の消化能力を超えていることに外ならず(福島、広島)、起債許可に就ては慎重な配慮を要望する声が高い(松本)。

(倉内)

十一月 中

一、概 況

政局の混迷は実効の伴わぬ経済施策に対する反感と相俟つて現内閣に対する不信任感を高めている(各店)。産業界は電力事情の悪化に伴い生産能率低下し(各

店)、採算割れの向が多く(大阪、松山)、又輸送不円滑に基づく滞貨の増高は(大阪、青森)、企業の経理面を著しく圧迫している。

而して人員整理、工場閉鎖等も弗々行われており(松山、岡山、秋田)、この為め物価昂騰に因る生活苦と相俟つて不安人氣は増高しているが(各店)、更に日銀券年末二千億円突破の状況にインフレーション悪化の見込は都鄙に瀰漫し(金沢、広島)、三月危機説が再び流布せらるゝに至つた(神戸)。従つて此の際確乎たる企業対策、労働対策の実施を要望する声が高い(甲府、高知)。

供米の成績は計画に比し芳しくなく(各店)、特に出足の良かった早場米地帯は早くも足踏状態に陥っている(青森、秋田、小樽、函館、福島、新潟)。之は早場米奨励金が前月末を以て打切られたこと、籾摺用の電力不足、個人割当の未了(各店)、農家の強権発動に対する日和見態度(新潟)、農村指導者の政治的分裂に伴う供米指導の不統一(新潟、甲府)等が強く作用している為で、一部には百%供出を困難視する向もある(松山)。又農業協同組合の設立は九割以上が一町村一組合主義の方向に動いており(広島)、大体現農業会の改組に落着くものと見られている(静岡)。従つて改組に依る農業会預金の動搖は見られないが(静岡、松江、福岡)、只移行の間隙を狙つて銀行、保険会社等が預金争奪を行つてゐる地方がある(福島、静岡、松江)。

二、預 金

公金預金は官公庁給与支払増加等に依り減少したが(新潟、福岡、熊本、鹿児島)、一般自由預金は貿易公団関係、共同融資資金の市中滞留(大阪)、供米代金、水産品水揚資金等季節的資金の流入に依り前月に比し若干の増加を示している(函館、秋田、福島、松本、静岡、大阪、岡山、松山)。然しながら一般的商況不振、市中物価先高見越しに依る手許現金の増加(各店)、越冬準備資金等資金需要が旺盛となつた為め依然低調を免れぬ地方も多く、殊に農業会預金に於ける供米代金の歩留は低率で(新潟、金沢、松山)、群馬県の如きは供米代金振替九千四百万円に対し払戻資金請求は一億二千九百万円に達している(前橋)。又各地共封鎖預金の減少が著しいが(各店)、之は甲の二産業に対する貸出が新円払となつたこと

各支店金融報告抜萃 昭和二十二年十月—十二月

(神戸)の外、納税(仙台、新潟)、株式買入の為めの引出(松本)に依るものである。

日本銀行券は年末二千億円を突破するものと予想されるが、この為め換物人氣は旺盛となり(広島)、平価切下説乃至は再封鎖説が巷間に流布され(前橋、松本、熊本)、貯蓄運動を愈々困難ならしめている(金沢、松江、松山)。

三、貸 出

本月十五日より開始された甲の二産業に対する新円貸出は新円経済移行への過程として一般に好感を以て迎えられた(各店)。年末を控えての資金需要は急増しているが、融資規制の改正(神戸)、回収不順調等の為め金融機関は貸出を引締めている(各店)。然し融資規制の枠打ち切りに伴う過渡的措置を見越して可成り積極的に融資を行つた所もある(門司)。貸出先は依然として繊維工業(金沢、大阪)、各種蒐荷配給機関(小樽、函館、福岡)が圧倒的に多いが、特に繊維製品蒐荷配給機構の改正に依る商品引取資金の需要は巨額に達し(前橋、福島、大阪、名古屋、神戸、岡山)、之が金融逼迫に拍車をかけている。

かゝる資金不足の深刻化に伴い闇金融は愈々横行し(神戸、岡山、門司)、大会社すら一時の緊き資金に之を利用する有様で(神戸)、闇金融の対象も大中企業方面に移動している(神戸)。又無尽会社、信用組合等で正規の勘定を起さないで資金の闇流しを行う悪質のものも生じ(門司)、一部には第三国人が公然と合作社組織で預金の受入及び貸出業務を開始するに至つた事例もある(神戸)。

四、産業界の金詰り

政府の支払遅延、諸物価昂騰に依る経費の増高(各店)、輸送不円滑に依る製品資金化の渋滞(秋田、仙台、静岡、松本、松江)、融資規制の強化、一般的購買力の不足等に依り事業界の金詰りは此処二、三ヶ月来愈々深刻化している(各店)。加うるに電力飢饉に依る生産減退により賃銀の分割払乃至は不払が漸次増加し(福島、静岡、松山、岡山、松江)、更に遊休設備の売却(京都)、割当資材の辞退(小樽)等を行う者が目立つてゐる。然し乍ら小企業者は依然として物交、闇流し等に依り急場を凌がんとし(仙台)、大企業方面も根本的対策を避けつゝ経営を持続せんとする等(小樽、名古屋)当面の糊塗に汲々たるものがある(松江)。

五、物 価

新米穀年度に入り主食の配給は比較的順調に行われているが(各店)、取締の強化、農家の強腰等に依り主食類の闇値は漸次昂騰の様相がある(各店)。又副食品も自由市場取締に依り反つて急騰の一端を辿り(鹿児島)、更に燃料も例年にならない寒さに大幅の騰貴を示しているが(京都)、今後に於ける越年資金の支払は年末の物価騰貴に拍車をかけるものと予想せられる(大阪)。尚過般統制の撤廃された果物類は出廻期のことゝ一時低落を示したが(仙台、広島)、年末に向い値上りの徴が窺われ、その前途には樂觀は許されない(広島)。(倉内)

十二月 中

一、概 況

日本銀行券の二千億円突破、千八百円ベースの崩壊、更に生産減退傾向等経済状態の悪化により先行不安心理は頓に亢進したが(松本、札幌、金沢、静岡、甲府)、殊に納税不振は著しく(岡山、松山、函館)、此の爲め財政の破綻は必至とみられ、最早到底此の儘では済まされぬとの観測が専らとなつた(松本、甲府)。かくて明年三、四月頃には平価切下、新通貨発行等何等かの通貨措置がとられるとの説が巷間に流布され、更に此の間報道されたソ聯の通貨改革は之に拍車を加え(名古屋、松江、熊本、静岡、岡山、神戸)、換物、換株人気は極めて旺盛となつた(福島、広島、松山、函館、高松)。

一方産業界に於ては、G・H・Q特別調査団の現地視察により九州、北海道の石炭生産高は目標額を上廻る好成績を示したが(福岡、門司、札幌)、電力制限強化により大小工場共操業停止に近い状態に陥り(熊本、仙台、京都、下関に於ては製氷電力不足により出漁不能の漁船多数を生じた(下関)。かくて企業のコネは愈々深刻化し(京都、広島)、越年資金も人員整理の条件付支給(岡山、下関)、製品の現物支給(前橋)等により漸く行われ、又更正決定の営業所得税の捻出に苦慮している(岡山、松江、広島)。

供米は前月の不振を挽回し福井、山形両県が完納した外、岩手、秋田、群馬、富山の各県が割当の九〇%を超えるに至る等順調なる進捗を見せている(札幌、秋田、福島、高松、松江、岡山、下関、新潟、青森)。之は昨年の強権発動に對

する農家の反省の外(仙台、甲府)、年末の現金需要(松本、熊本)、酒、砂糖、衣料等の報奨制によるものと窺われている(仙台、松本)。

二、預 金

地方分与税分与金、官庁給与、終戦処理費等政府資金の支払超過が多額に上り、更に供米代金、水産物、果実代金等の流入を見たため自由預金は比較的順調な伸張を示し(札幌、静岡、名古屋、岡山、新潟、熊本、甲府、小樽)、京都組合銀行の一般自由預金は前月の増加三億三千五百万円に對し本月中旬迄既に略二倍の六億八百万円を増加した(京都)。然しながら増加額の大部分は事業資金等の一時的滞留であり(前橋、小樽、福岡、神戸)、一部には通貨不安、換物傾向の再燃により率ゝ預金減少を見た所もあり(松山)、貯蓄運動の効果に對する疑惑の擡頭もみられ(門司)、其の前途は愈々困難を加えるものとみられている(函館、門司、高知)。

農業会預金は多額の供米代金の振込みを見たため増加も著しいが、肥料、牛馬等営農資金(仙台、高松)及び正月用消費物資の購入資金の引出の外(秋田、門司、新潟)、農業会改組に伴う一般的不安、幹部の預金吸収に對する熱意の喪失(福島、門司、下関)等により供米代金の歩留りは四〇%、乃至五〇%に止まり(秋田、仙台、金沢、京都、松江、熊本)、一部には二〇%程度の処も見受けられる(松山、門司)。従つて換物思想瀰漫の折柄今後強力な対策がとられない限り、歩留の好転は期待し難いものとみられている(松山)。

三、貸 出

年末を控え決済資金、越年資金の外、織維関係資金(各店)、酒造米買入資金(松山)等の資金需要は幅狭し(各店)、殊に中小工業者よりの借入申込が激増した(下関、甲府)。当初手許窮乏の爲め貸出引締めの方針に出た金融機関も、月央後政府資金の支払進捗による預金増加に顯著な貸出増加を示し(門司)、札幌組合銀行の貸出は二億五千八百万円と例月の約二倍に達した(札幌)。甲の二事業に對する自由支払貸付が認められたため、一時急激に増加した自由預金担保貸出も漸次減少している反面、丙種事業に對する一週間程度の短期貸出が増加している(京都)。然しながら實際の融資は織維関係、食糧営団、配電会社に對する共同融資

等が大半を占め(函館、小樽、岡山、福島、神戸)、一般産業に対する貸出は申込の三割程度を充たすに過ぎない(京都、岡山、松山、金沢)。かくて融資を受け得ない中小企業金の詰りは著しく、此の爲め不渡小切手が漸増していることは注目せられる(名古屋、熊本)。

尚比較的低位にあつた地元銀行の貸出金利も最近殆んど日歩二銭三厘中心となり(岡山、熊本)、更に上昇の気配濃厚である。

四、通 貨

官公庁会社筋の年末給与、供米代金の支払、その他政府資金の大口支払の外、繊維製品買取資金等現金需要が激増したため、日本銀行券は各支店共記録的な発行超過を示した。然し三十一日には臨時寄託証券制度の効果も手伝い還収の傾向を示したものの(各店)、政府資金の無計画な放出を非難する声が高い(岡山)。かくて著増せる通貨は消費資金の性質が濃い為め、年明後の還流は多くを期待し得ないものとみられている(前橋)。

五、金融機関の金繰

当初産業資金の需要旺盛に相当窮屈を予想された金融機関の手許は、政府資金の大量撒布に日本銀行よりの借入金返済する外、国債、地方債、復興金融債券、大蔵省証券の引受、買入を行い、更に一時コールの放出をみる等異例な寛ぎを示した。特に従来専ら本店への送金に力を注いでいた支店銀行及本所よりの順調な送金に恵まれた農林中央金庫支所も年末余裕資金を大蔵省証券の買入に使用した(各店)。

六、歳末市況

越年資金の支給、新円階級の換物運動等により商況も活気づいたが(各店)、一般に購買力の減退は争われず、食料品、生活必需品等の売行が目立つた程度で(函館、金沢、広島、熊本)、家具、衣料品等の高級品は売行不振であつた(各店)。唯一部には供米代金、水産物売上代金等の季節的資金に潤つた農漁村の購買力に相当賑つた処もある(仙台、前橋、岡山、青森)、物価も正月用品、衣料品、燃料を中心に一、二割方昂騰し、又主食、蔬菜、鮮魚類は統制強化により大幅の騰貴を示したが(各店)、昨年末の如き急騰は見られなかつた(函館、岡山)。

七、生鮮食料品統制強化の反響

月央実施せられた生鮮食料品の取締強化は嘗て見られない政府の鞏固な態度に或る程度の期待が持たれたが(岡山)、従来の例に倣し取締失敗を見越した生産者の非協力的態度による出荷激減と(静岡、高知、松江)配給機構の不備の爲め配給は激減し(高知、仙台、下関、高松)、特に野菜類は市場から全く姿を消した処も少なくない(門司、金沢)。

かくて之等の闇値は危険料も加わり一躍二、三倍の急騰を示し(金沢、門司、新潟)、配給の裏付のない一方的取締は徒らに価格の釣上に終り、消費者の犠牲を増すものと非難の声は高い(各店)。然し生産者側に於ても資材が公定価格にて確保せられる限り協力を辞さない態度を示していることは注目せられる(金沢)。

(黒崎、倉内)
(本稿作成迄に大阪、鹿児島両支店報告未着に付、参照を省略した。)

昭和二十三年一月——三月

一、概 況 一 月 中

インフレーションの進展に加え、欧州各国の通貨措置は近き将来通貨措置必至との不安人氣を掻立て(各店)、之がブローカー、商人筋、一部農漁村の新円階級等の換物人氣を刺激し、特に株式の急騰を齎らした(各店)。又通貨措置に備えて物資の買漁り、預金の小口分割(京都)を計るものもあり、通貨不安は政府再三の声明にも拘らず依然根強いものがある(各店)。斯かる通貨不安を脱却する唯一の鍵として外資導入を要望する声が近來特に昂まつて来ている(京都、広島)。

二、預 金

銀行方面の一般自由預金は政府支払の抑制、所得税、非戦災特別税の徴収、滞納税金の強制取立(各店)等の爲め増勢鈍化し(各店)、中には前月末に比し若干減少した所も有る(秋田、京都、高知、門司)。又第一封鎖預金の減少は著しいが、之は非戦災特別税納入の爲め相当引出されたのと、月央より乙、丙種事業に対す